

巻頭言

日本臨床細胞学会埼玉県支部長
菊池 義公
(医療法人財団宝積会理事長)



第20回日本臨床細胞学会関東連合学術集会は皆様のお蔭で盛況のうちに無事終了することが出来ました。

20回という節目の学会でもあり、土曜日に学術集会、翌日には市民公開講座を開催いたしました。

学術集会の参加者は400名、公開講座には300名の多数の参加者を迎えることが出来ました。学術集会では主として子宮頸がんにと絞って特別講演を、ワークショップでは細胞診における偽陽性を減らせるかというテーマで活発な討論が行われました。

市民公開講座では若年女性の子宮頸がんの発生率を減らすにはどうしたらよいか、若年女性に率先して子宮頸がん検診を受けてもらうようにすることが大切である。そのために子宮頸がんの発生過程にHPVが大きく関与していることを周知させることが重要であると思います。

これからの臨床細胞を考えると、得られる少量の細胞で正確な診断と予後判定が可能となり、治療法に結びつく情報が得られるようになることが大きな目標と考えております。

臨床細胞がこれから益々発展していくことを祈念してご挨拶に代えさせていただきます。